

箱根駅伝秘話

大平台の「中央大学横断幕」

地主さんの思い「白門48会」の熱情

”天下の陰、箱根の山を駆け上がる。「まだか、まだか」と待ちかねた中大O.B.の列から、5区・主将の山本亮選手に「ガンバレ、山本！」と絶叫のような声援が飛んだ。

ヘアピンカーブで有名な大平台の応援スポットだ。そこに大きく鮮やかな横断幕がかかっていた。

（箱根駅伝不滅の6連覇 中央大学）――。

横断幕1枚にも、秘話がある。「白門48会」と地主さんとの、10年来的。

07年総合8位に終わったとはいっても、熱い応援は不滅である。学生記者 滝沢孝祐総合政策学部4年

新宿ルミネの初売りに並ぶ女性たちをよそに、白髪まじりの男性たちが缶ビールやおつまみ片手に集まった。総勢6人。小田急・特急ロマンスカーに乗り込むその背中には、「白門48会」の文字が。大平台へ向かう一団に、記者は同行した。1月2日、箱根駅伝の初日（往路）である。

新宿を出発すると同時にビールで乾杯。携帯テレビを窓際に設置すると、駅伝の中継が映し出される。そして、片耳にはラジオ、手元にはワセグ放送が見られる携帯電話。自宅にいる家族からは随時速報メールが届く。メンバーの中には宮崎県から参加した橋本勝さんの姿もある。

ハコネ優勝を期に支部結成

白門48会とは、昭和44年入学、ま

たは同48年卒業の学員で構成する学員会の一支部だ。会員数は現在700人余りという。年次別学員会のなかでは、人数も多く支部活動も活発だという。今から約10年前、箱根での優勝を機に結成されたというから、箱根とは縁が深い。

11時半。中継放送が「上野（3区）

が10人抜き」と伝えると、えらい盛り上がり。周りの乗客にはさぞ異様な光景……だったでしょうが（笑）。

先頭集団が箱根の山に挑み始めた頃合いに、箱根湯元からの箱根登山鉄道で大平台駅に到着。駅から国道1号線を下ったところに、ヘアピンカーブはある。すでに多くの仲間が旗を立て、待ちかまえていた。48会のメンバーに交じって、大平台で応援の若者も数十人。

「学生時代は、軟式野球部に所属していました。同じ体育連盟の仲間として、応援したいと思って10年間、毎年来ています」と、語るのは中島康夫さん（96年・文卒）。仲間の山田憲吾さん（98年・法卒）は、「毎年来ています。自然と仲間ができるようになりました」と、箱根に寄せる気持ちを語る。

通り過ぎる車の乗客が、一様にホオという表情で視線を向かわせる。特大の「箱根駅伝不滅の6連覇 中央大学」の横断幕は、絶好の場所といい、ひととき目立つのである。

地主さんとの機縁・奇禍

――なぜ、大平台に横断幕を張ることになったのですか。

「実は地主さんとのトラブルが

きっかけなんですよ（笑）」

白門48会3代目会長の堀井勉さん（57歳・昭和48年理工卒）が語る、秘話である。

「10年ぐらい前から大平台で横断幕を持って応援していたのですが、5年ほど前に横断幕を無断で柵にくくりつけたんです。そうしたら地主さんから怒られましてね。翌年はお詫びかたがた、ご自宅まで家内ともどもご挨拶にうかがったんです」

これがよかった。災い転じて福とはまさにこのことである。堀井さ



横断幕を背に熱烈声援

んと地主さんの奥さん同士が意気投合したこともあり、地主さんのOKが出て翌年からは正式に大平台での掲示が認められた。一昨年の秋からは敷地内の木々を竹竿でつないで横断幕を固定することが可能になり、今大会は昨年末12月9日に、早々と横断幕が張られた。

地主・村田賢二さんの心意気 「中大は応援マナーがいい」

そろそろ地主さんを紹介したい。箱根・大平台一带に多くの土地を持つ村田賢二さん（68歳）である。

「いろんなところから反響がありますよ。『駅伝の季節ですね。季節を感じますね』と、旅館のお客さんから声が掛かったり、バスの運転手さんからも。なんといつても、国道1号線沿いですから、1日に5000〜6000台は車が通ります。広告効果は抜群ですよ」と、眼下に広がる町並みを見るかして語る。

「箱根の自然を守るのが地主である私の使命と考えて、通常は看板の設置を断っています。でも、広告ウソムンではなくて、駅伝で箱根を盛り上げようという気持ちから、横断

幕の設置を認めました。中大さんの応援にかける熱意も伝わりましたから。応援モラルが低下しているなかで、ゴミを拾って帰ったり、一緒に応援している他大学にエールを交換



地主の村田さん(左)と「白門48会」堀井さん

したりと、中大は応援マナーがいいですね。そんなところにも、好感が持てました」

——他の大学からも、「横断幕を張らせてください」と声がかかったと聞きますが。

「確かに沿道からよく見える場所

にあるためか、それを見た大学が私の連絡先を調べて、『あの場所に横断幕を張らせてください』と電話がきます。まあ駅伝新興大学が多いですね。箱根駅伝のメインスポンサーの××ビルからも声がかかりましたよ（笑）。そうはいつても、中大さんが長い間をかけて、ずっと応援してきた場所ですからね。小旗1本で応援していたときから、知っていますから。中大が発掘した場所を、後から来て『私たちも……』では、なんだかね」

筋の通った心意気が、中大勢としてはよけいに心に染みる。白門48会・現副幹事長の新倉利明さん（56歳・経卒）が、仲間数人と小旗1本で約10年前から応援を始めた。そこから数年経ち、横断幕を手で持ちながら白門48会のメンバーを中心に応援してきたという。「継続は力」か。

ワセダの土地柄にもかわらず

小田原市を中心とした神奈川県西部は、早稲田大出身の衆議院議員である河野洋平氏のお膝元。そのためか、地元の有力者にも早稲田支持者は多いという。地元からも、「なぜ、



中央大学なのか」と聞かれることも多いという。

「経緯をお話するとみなさん納得するのですが、なぜ、中央大学なのかと聞かれることがありますよ。横断幕をみて、『中央大学を応援したい』という方も増えてきましたね。やはり、箱根の名門ですから」と、うれしい言葉も聞けた。

横断幕も張りっぱなしでは、たるんでしまう。村田さんが杭を打ち込み、補強をしたこともあるそうだ。

往路14位、総合8位。今年は「シード権争い」が焦点のようなレース模様だったが、来年こそは……。

大平台へアピピンカーブの「中大横断幕」は、テレビ中継でも繰り返して映しだされるはずである。願わくば、「C」のタスキがトップを競う勇姿とともに。